松本市アルプス公園自然活用検討会議提言書

令和４年３月　　日

松本市アルプス公園自然活用検討会議

目　次

1　はじめに　（土田座長）

2　アルプス公園自然活用検討会議の経緯
⑴　設置の経過及び目的
⑵　会議の活動経過

3　提言
⑴　北側全体の提言
ア　名称
イ　組織・PR
ウ　情報
エ　移動
⑵　ゾーン別の提言
ア　東入口駐車場
イ　ふれあいの水辺
ウ　森の入口広場
エ　北入口広場
オ　しぜんかんさつの森
カ　花の丘
キ　園路

4　資料
⑴　松本市アルプス公園自然活用検討会議設置要綱
⑵　委員名簿
⑶　会議等経過

アルプス公園自然活用検討会議
提言資料

2022.2

アルプス公園について

全体の課題

【名称】
・南側開園部、北側拡張部と言われてもどこのことかわからない。

【組織・情報】
・市民ボランティア等の活動組織とその窓口である管理組織の情報が少なく、市民にアルプス公園の魅力が伝わりきっていない。

【看板、案内板】
・公園全体に案内板や道標が不足していて、現在地や目的地の位置がわからない。
・樹木、鳥、動物等の情報がわかる案内板が少ない。

【景観】
・樹木の育成が管理されておらず、西山の眺望が悪くなっている。

【移動】
・北側拡張部の園路は、駐車場から各施設への移動距離が遠いことや、一部勾配が急であることなどの問題があり、移動が困難である。

北側拡張部　課題

名称について

【現状】　南側開園部と北側拡張部の名称が決まっていない。

【今後】　南側開園部と北側拡張部の名称を決める。

【効果】　南側開園部と北側拡張部それぞれのエリアが分かると共に、親しみを持ちやすくする。

北側拡張部　課題

組織・情報について

【現状】
- 市民ボランティア活動等の活動組織とその窓口の管理組織であるTOYBOXについての情報が少なく、市民に活動や公園の魅力が伝わりきっていない。
- ボランティア活動や施設利用についての窓口、利用方法がわかりにくい。

【今後】
- 組織情報や活動についてSNSやHPでの情報発信を強化する。
- ボランティア活動の窓口情報や施設の利用方法、料金等をHPに明記する。
- 管理組織の仕事を明確化する。

【効果】
- より多くの市民にアルプス公園の魅力を認知してもらうことができ、北側拡張部の利用促進にも期待ができる。

北側拡張部　課題

看板・案内板について

【現状】
- 園路・各施設ともに看板や案内図が少なく、現在地・目的地までの経路や各施設の特徴がわかりづらい。
- 情報の古い看板が多く、現在のアルプス公園の現状を把握できない。
- 樹木や生物の生態等、学習につながる案内板が少ない。

⇩

【今後】
- 看板・案内板を各施設、園路に設置または更新する。
- 情報がわかるQRコード付き看板の設置。
- 樹木や生物の生態等についての案内板設置。

⇩

【効果】
- 来園者が目的地に行きやすくなる。
- 各施設の特徴を活かした活用ができる。
- 学習しながら園内を楽しむことができる。

北側拡張部　課題

景観について

【現状】
- 樹木が多く、西山本来の眺望が悪い。

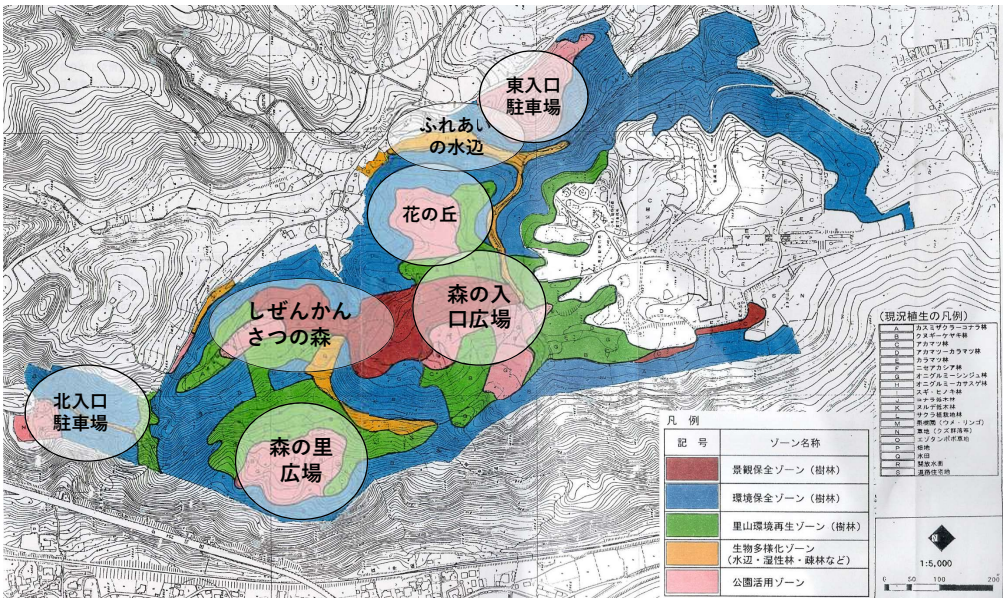
⇩

【今後】
- 樹木の間伐、伐採、剪定を行う。
（「緑地保全活用の方向性」、「目標植生図」による整備）

⇩

【効果】
- 眺望が良くなり、北アルプスや安曇野を一望できる。

緑地保全活用の方向性



各ゾーンの緑地保全活用の方向性

景観保全ゾーン（樹林）【赤】

- 拡張部の稜線を形成する良好な樹林地景観を保全するゾーンである。
- アルプス公園の稜線を形成するアカマツ等の樹林を保全して、地域の特色ある緑、健全な樹林を保護育成する。
- 目標とする環境(植生)は、基本的には現況の植生とし、自然の遷移に委ねた管理で維持する。

環境保全ゾーン（樹林）【青】

- 拡張部の稜線を形成する良好な樹林地景観を保全するゾーンである。
- アルプス公園の稜線を形成するアカマツ等の樹林を保全して、地域の特色ある緑、健全な樹林を保護育成する。
- 目標とする環境(植生)は、基本的には現況の植生とし、自然の遷移に委ねた管理で維持する。

里山環境再生ゾーン（樹林）【緑】

- 里山の風景を形成する雑木・花木等、魅力ある樹林を創造するゾーンである。
- 既存林の伐採更新や下草刈りなど適切な管理を行い、里山の基盤形成、動植物にとって多様な生息生育環境の保全を図る。
- かつて定期的に管理されていた雑木林を主な目標植生とし、良好な状態で維持管理していく。

各ゾーンの緑地保全活用の方向性

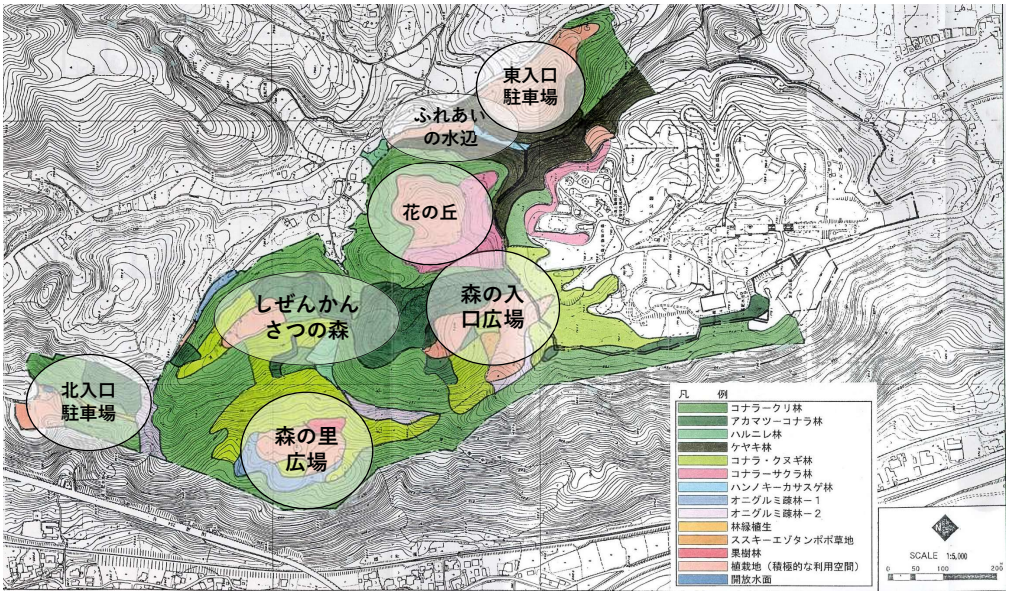
生物多様性ゾーン（水辺・湿生林・疎林）【オレンジ】

- 湿生林を含む水辺や、疎林、林縁植生等、動植物の多様な生息生育環境の形成を図るゾーンである。このゾーンは主に現況の立地環境に対応した小動物の生息環境の形成を図る。

公園活用ゾーン【ピンク】

- 開発への許容度の高い植生を活用し、広場や公園施設を整備するゾーンである。
- 現在生育する象徴的な植物の保全を図りつつ公園利用に必要な施設の整備を行うとともに、動植物との身近なふれあいの場を創出する。
- 既存樹木、既存林を残し周辺環境に調和した空間（植栽地）の形成と、小動物の生息、誘致を図り環境創出を図る
- 一般的公園の植栽地の管理手法や耕作地周辺の管理手法を採り、形成された環境を維持していく。

目標植生図



北側拡張部　課題

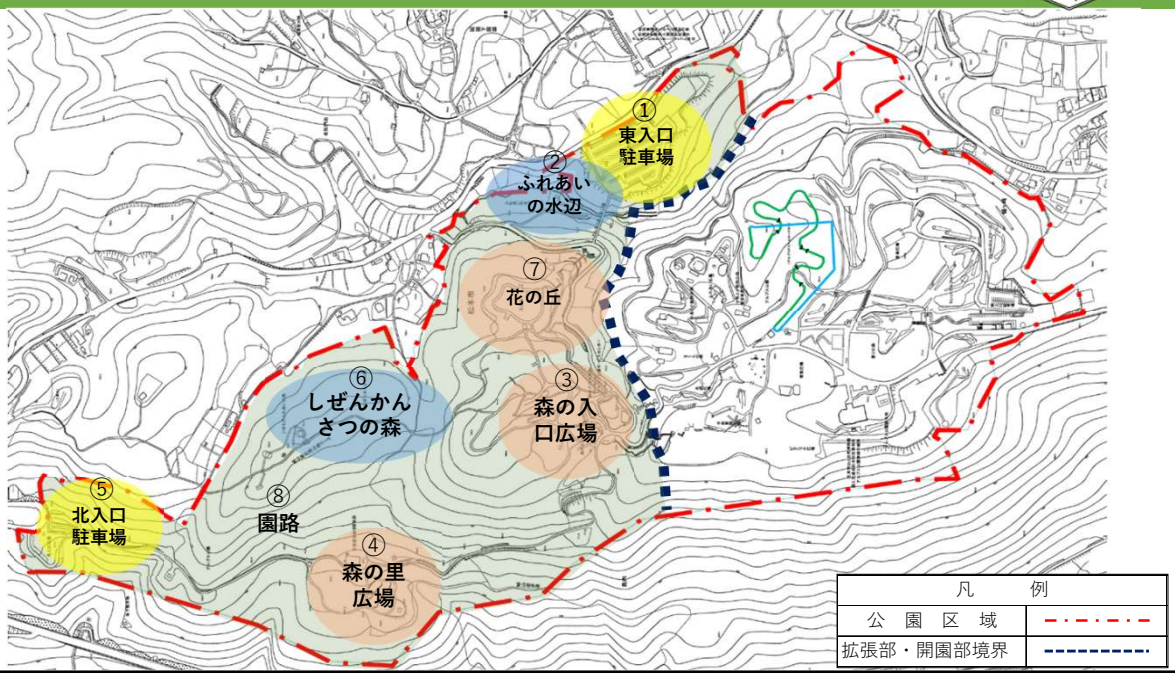
移動について

【現状】
- 北側拡張部の園路は舗装が傷んでいる箇所が多くあったり、一部勾配が急であり、利用者が限られてしまう。
- 駐車場から各施設までの距離が遠いため、気軽に利用しにくい。

【今後】
- 園路の勾配等の情報を周知する看板の設置が必要。
- 園路の整備が必要。
- 駐車場から施設までの電動自転車やカート等の利用を検討する。

【効果】
- 各施設に行きやすくなり、多くの人に利用してもらいやすくなる。
- 利用者が自分に合ったルートの選択をすることができる。

アルプス公園　北側拡張部　自然活用ゾーニング図



①東入口駐車場

計画

- アルプス公園全体の中央駐車場として５００～６００台収容の駐車場として整備。
- 公園との間に、水辺の広場から続く谷があるためこれを渡る連絡橋を整備して、新しい入口のシンボルを形成。また、駐車場のまわりは、既存林を残しながら季節の草花を植栽して、花と緑に囲まれた魅力ある空間の創出。

機能

- 緑と舗装面の共存する駐車場。
- 既開設部と拡張部への新たなエントランス空間。

①東入口駐車場

現状・課題

- 植栽された草木、入口付近の雑草の手入れが不十分。
- 枯れた樹木の片付けが不十分。
- より分かりやすい案内看板の見直し。
- 森のかけ橋から見られる鳥類に関する看板の設置。
- 市街地から東入口駐車場までの行き方がわかりづらい。
- 駐車場の入口が狭いので改良が必要。
- 景観のPRが必要。

②ふれあいの水辺

計画

- 公園内では唯一残る谷間の小さな沢と水田跡地を活用して、水辺の自然観察や散策のための空間を整備。
- 沢の水を保全しながらホタルや水生生物が住める流れを再生し、流れ沿いに自然観察のための園路を整備。
- 水田跡は現況の地形を生かしながら、ハナショウブや湿地性の植物を集めて楽しみながら散策できる水辺。
- 水辺に連続する山裾の樹林に関しても、生物にとって良好な生息生育環境としてのつながりが保てるように樹種の転換などを含め、保全・育成に努力。

機能

- ホタルやトンボ、など水辺の生き物の観察
- 湿地の植物の観察・観賞
- 水辺の散策
- 流れの浄化

②ふれあいの水辺

現状・課題

- 水辺に降りるのに石積みがあるので、来園者が水辺に行きやすくなる工夫が必要。
- 案内看板の見直しが必要。
- 水生生物が多いので、生き物の看板設置。
- 人けが少ないので、防犯対策が必要。
- どのような生き物が生息、生育しているか調査が不十分。
- 私有地の購入または借地が必要。
- ビオトープとしての環境整備が必要。
- 橋の下にありアプローチが困難。

③森の入口広場

計画

- 拡張部の南端、既開設部との結節点に当たるゾーンを拡張部の入口として位置づけ、公園全体の案内や自然体験・観察のための各種施設、休息施設を併設したセンター施設を整備。
- 斜面の窪地や沢を生かしながら、できるだけ地形に沿った広場の整備とし、広いテラスと橋で斜面に張り出す自然に調和したセンター施設を設置。
- センター施設の背後には昔の耕作跡地を利用して、森の管理作業の拠点を整備し、森の材料を利用した子供たちの工作教室や様々な自然体験教室などを開催。

機能

- 森の活動案内・情報展示機能
(四季折々の里山の姿を集約展示)
- 休憩・交流拠点
- 市民活動・自然体験・学習拠点
- 樹林等自然環境の維持管理拠点

③森の入口広場

現状・課題

- アルプスの景観を確保するために西側の間伐が必要。
- 看板が老朽化してきている。
- 池に水が溜まっていないことが多い。
- 自然観察の場とするために、池に年中水を張り、ビオトープの池、浅瀬、中島、桟橋を整備する必要がある。
- 池、広場、休憩所のPRが少なく、十分に活用されていない。

④森の里広場

計画

- かつての山里の風景を再現した広場として整備。
- 古民家を利用した「古民家体験学習施設」と花のある農家の前庭、菜の花やソバなど季節の花に覆われた畑、カキ・ウメなどの実のなる樹園、樹林など自然の素材を活用した遊び場などを整備して昔なつかしい山里の風景を創造。
- 急峻な斜面に張り出す広場の地形を生かしながら、北アルプスや安曇平が一望できる眺望ポイントも整備。
- 「古民家体験学習施設」は無料休憩所として利用できるほか、ソバ打ちの体験教室や試食会、季節ごとの収穫祭も開かれ、地域ならではの伝統文化の伝承も担う施設。

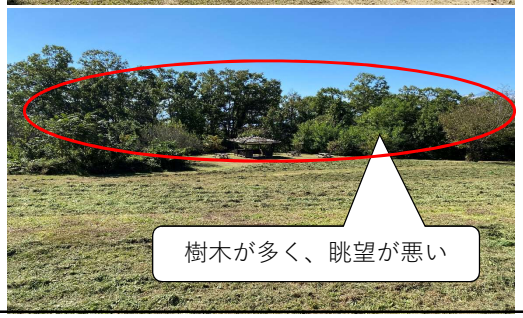
機能

- 原っぱでのピクニック
- 里山の自然体験・観察
- 原っぱや林間での遊び
- 里の風景観賞とイベント開催
- 園路沿いの花による誘導

④森の里広場

現状・課題

- 樹木が多く、北アルプスや安曇平が一望できない。
- 古民家を使用するための説明が少なくわかりづらい。
- 薬草園の整備が不十分。
- 北側駐車場からのアプローチが悪く、気軽に利用しにくい。
- 里山生活の体験、収穫祭、伝統文等のイベント頻度が少ない。
- 施設は魅力的であるが、PRが不十分なため利活用が少ない。



⑤北入口広場

計画

- 松本トンネル取付道路に接する区域の北端部に、収容台数30台程度の駐車場と案内板を設置した小広場、既存のため池を生かした水辺の休憩広場を整備。
- 樹林の少ない斜面上の広場として、開放的な空間と北アルプスや安曇野への優れた眺望性に配慮した北方面からの入口。
- 地形の改変を避けながら直接「森の里広場」に往来できる園路を整備し、登り下りのない歩きやすい動線設定に配慮。

機能

- 北側からのエントランス・小駐車場
- 小休憩
- 北アルプスへの展望

⑤北入口広場

現状・課題

- 入口の雑草等の清掃が不十分。
- 樹木が多く、北アルプスや安曇野が見渡せない。
- 案内看板が老朽化で内容が把握できない。
- ため池の復旧、清掃が必要。
- 駐車場の拡張。
- 森の里広場へのアプローチが悪い。

⑥しぜんかんさつの森

計画

- 現況の尾根道はそのまま残し、動線沿いの林床整理やコナラ・クヌギ林などへの変換を行うことにより、動物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類など）や植物の多様な生息生育環境を創造。
- 施設的には、尾根の斜面に張り出す小さな展望デッキや、野鳥観察が可能な小広場、昆虫観察ができる樹林や草地、峠の休憩広場など必要最小限の整備。

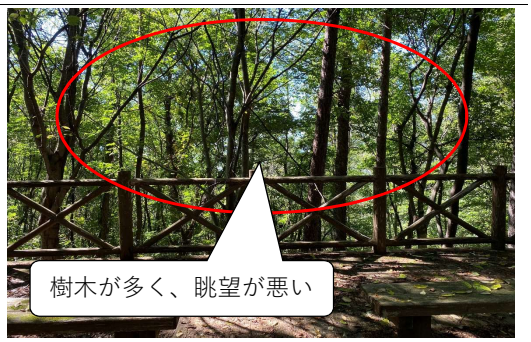
機能

- 自然観察・ふれあい・散策
- 尾根沿いの小休憩・展望
（辻広場。峠の広場）

⑥しぜんかんさつの森

現状・課題

- 遊歩道に倒木が多くみられる。
- 展望デッキからの眺望が悪いため伐採が必要。
- 展望デッキが破損している。
- しぜんかんさつの森までの道のりは、各駐車場から遠く、坂道も多くあるため万人の利用は困難。
- ニセアカシアが多すぎるので、コナラ、クヌギ等の広葉樹に樹種転換が必要。
- 展望デッキの下にはピンク色のマユミの群生があったが、今はなくなってしまった。



⑦花の丘

計画

- 丘陵地の緩斜面を活かし、既存のカスミザクラをはじめとする花木やヤマツツジなどの低木、山野草の草花など季節の花が美しく咲く拠点として整備。
- 森の入口広場からは、幹線動線の連絡で往来をし易くし、丘の中央部に残るホウノキは、広場を特徴づけるランドマーク（景観を象徴する要素）として位置づける。また、東入口駐車場からも見渡すことのできる緑の中に映える季節の花空間を演出。

機能

- 新たな花見・ピクニックの拠点
- 季節の花木の観察
- 展望と手軽な散策コース

⑦花の丘

現状・課題

- 花が少ないので、植栽を行い在来植物を増やす必要がある。
- 現在は花の丘の大半が芝地になっている。
- 東側の階段斜面にツツジ、サツキ、シモツケなどが植栽されているが、枯れ枝が多くなっている。
- 花壇があっても周りの芝生の入れ込みが激しいので、防ぐための対策が必要。

⑧園路

計画

- 7ヶ所の利用区域は、それぞれが散策路で連絡して一周3kmの拡張する動線上に設定
- 小規模な耕作跡の一部や動線沿いの疎林の林床を利用して、季節の山野草が一面に咲く花畑を整備するほか、休憩広場や遊びの小空間を点在させて、全ての利用者が散策を楽しめる空間つくり

機能

- 季節の花木の観察
- 散策コース

北側拡張部　主要園路

⑧園路

現状・課題

- 案内版、道標が少なく現在地や目的地がわかりづらい。
- 倒木が多く、足元が悪く歩きづらい。
- 園路をカバーしているチップが無くなり、整備されていないところがある。
- 園路に野鳥の写真スポットがあるが、写真撮影者が園路にたまり、通行の妨げになっている。
- 各施設までの園路が長い。
- 全体的に傾斜があり、誰もが利用しやすい園路ではない。
- 車いす等、障害を持った人は利用しにくい園路となっている。